

## ウ) 学校跡地

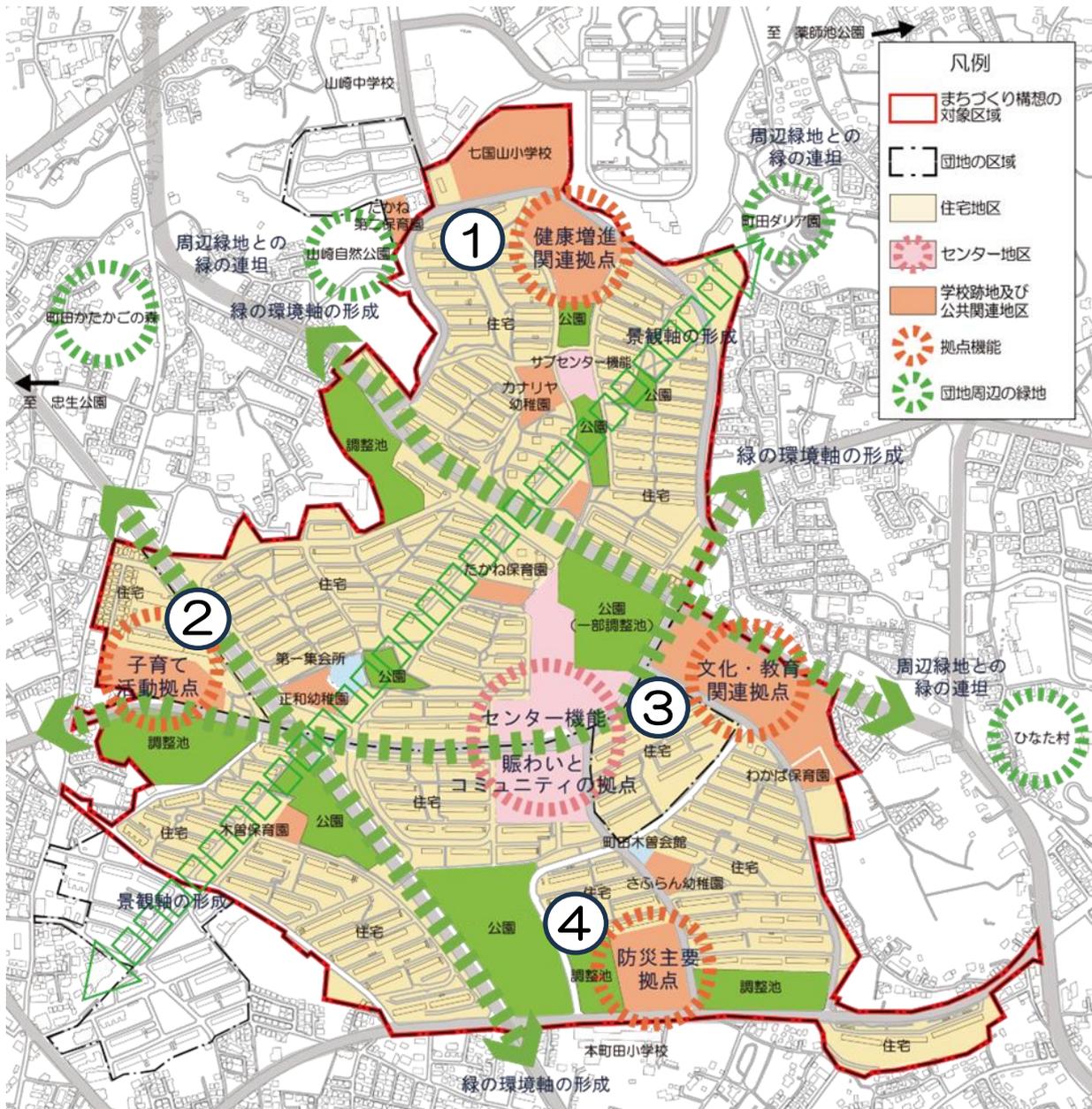
### 【整備方針(2013)】

- 多様な世代が安心して生活できる、魅力のある団地地区を実現するために、社会状況の変化や地域住民のニーズを踏まえた地域の施設整備を推進します。
- 学校跡地には上記を踏まえた地域の拠点機能（※）を整備します。  
※防災主要拠点、健康増進関連拠点、子育て活動拠点、文化関連拠点、教育関連拠点
- 拠点機能の整備にあたっては、団地だけではなく町田市域全体も視野に入れた適切な機能を導入します。

### 【取組状況】

- 学校跡地では、新たに整備した団地地区の拠点機能の活用を進めています。

# 学校跡地の活用状況



緑の環境軸

既存樹木の保全や緑化などにより緑のシンボルロードの形成を図る。



景観軸

開放的で見晴らしの良い空間を活かし団地地区独自の景観の形成を図る。

① 健康増進関連拠点(旧忠生第六小学校)  
町田忠生小山エリア中学校給食センター  
(仮称)町田木曾山崎パラアリーナ(整備中)



旧忠生第六小学校跡地 (敷地面積 : 17,354 m<sup>2</sup>)

【開校 : 1969年4月1日 閉校 : 2003年3月31日】

2025年4月に健康増進関連拠点して活用するため、災害時にも対応可能な給食センターが開所されました。また、パラスポーツの体育館と健康増進関連施設の導入の検討が進められています。

② 子育て活動拠点(旧忠生第五小学校)  
町田市立山崎保育園



旧忠生第五小学校跡地 (敷地面積 : 14,342 m<sup>2</sup>)

【開校 : 1968年4月1日 閉校 : 2003年3月31日】

2014年4月に山崎保育園が整備され、忠生地域子育てセンターとしても活用されています。

③ 文化関連拠点・教育関連拠点(旧本町田中学校・旧本町田西小学校)  
桜美林大学東京ひなたやまキャンパス



旧本町田中学校跡地 (敷地面積 : 15,592 m<sup>2</sup>)

【開校 : 1975年4月1日 閉校 : 2011年3月31日】

旧本町田西小学校跡地 (敷地面積 : 17,617 m<sup>2</sup>)

【開校 : 1973年4月1日 閉校 : 2001年3月31日】

2020年4月に桜美林大学東京ひなたやまキャンパスが開設され、芸術文化学群の学生と地域住民との新たなコミュニティが形成されています。

④ 防災主要拠点(旧緑ヶ丘小学校)  
町田消防署・緑ヶ丘グラウンド



旧桜ヶ丘小学校跡地 (敷地面積 : 14,701 m<sup>2</sup>)

【開校 : 1970年4月1日 閉校 : 2003年3月31日】

2017年11月に町田消防署が移転し、隣接するグラウンドは2018年11月より各種スポーツ活動や防災イベント等に活用されています。

## エ) 道路・公園

### 【整備方針(2013)】

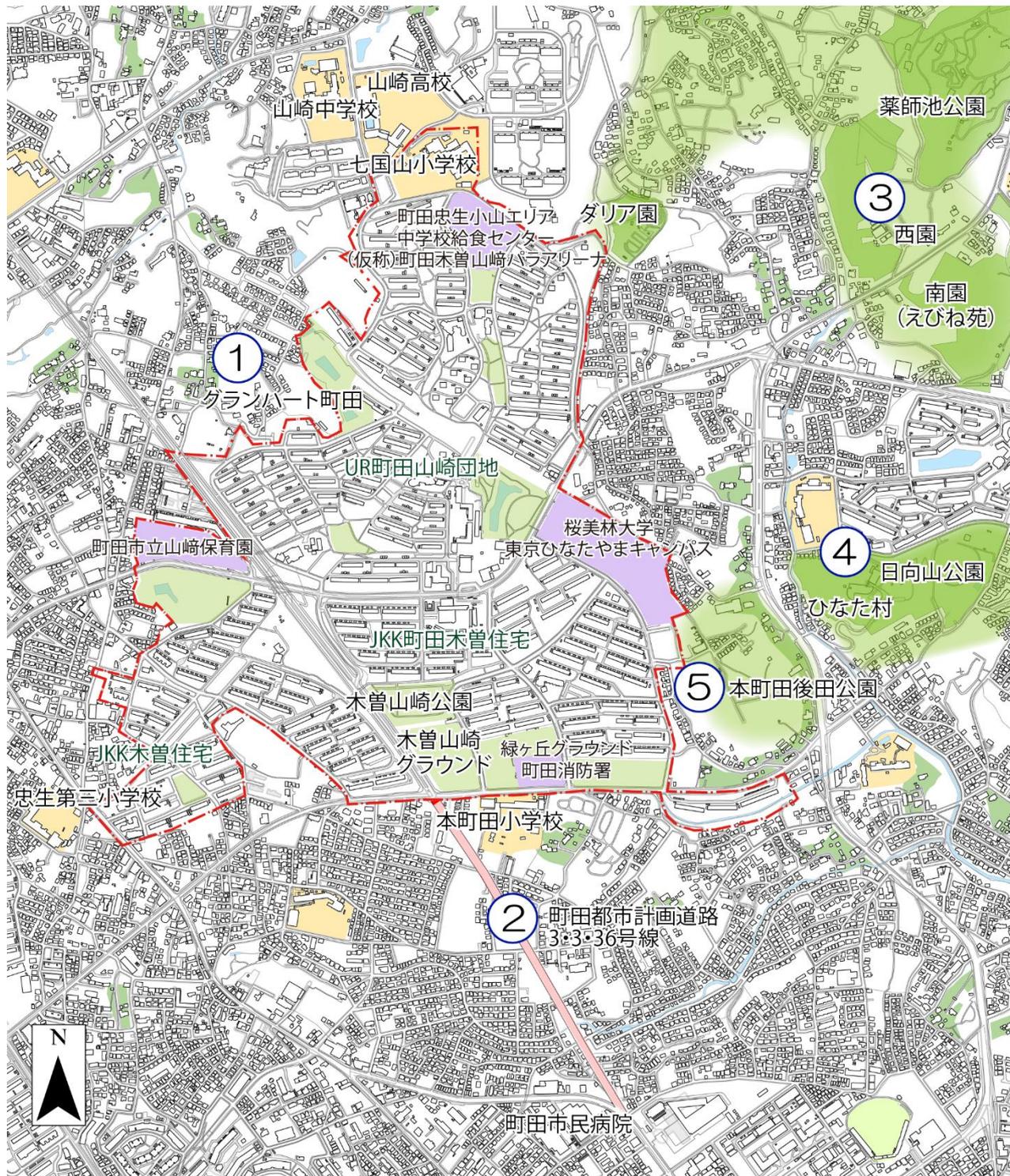
- 既存樹木の保全や新たな緑化に努めるとともに、地域の魅力の向上のために、憩いの場、コミュニティの場としての公園・緑地の整備を推進します。
- 山崎自然公園や町田ダリア園、忠生公園、薬師池公園など周辺の大規模緑地を団地地区内の公園や緑地と連続性を持たせることで、団地地区および周辺地域の魅力向上を図ります。
- 団地地区の主要な道路および通路は、死角や段差を無くすことで、誰もが安心して歩くことができる歩行者空間を確保します。

### 【取組状況】

- 道路の街路樹については、植栽から50年近く経過している老木、大径木が多く、植栽間隔が狭いため、密集状態にあります。これらを適正管理し、緑豊かな環境を維持しながら、良好な歩行空間の整備を進めています。
- 公園について、団地地区周辺の町田薬師池公園四季彩の杜が整備され、住民の憩いの場が生まれました。

道路、公園など周辺地域のまちづくり

団地の周辺地域では以下のまちづくりが進められています。



### ①グランハート町田



24 時間 365 日「医療」「看護」「介護」「福祉」「薬」「食」などのサービスを提供するグランハート町田が整備されました。

### ②町田都市計画道路 3・3・36 号線



木曽団地南交差点から町田市民病院東交差点までの約 800m の区間が開通しました。

### ③町田薬師池公園 四季彩の杜西園



町田薬師池公園 四季彩の杜西園が 2020 年 4 月にオープンし、薬師池公園及びその周辺の魅力が進み、来街者が増えています。

### ④町田市子ども創造キャンパスひなた村



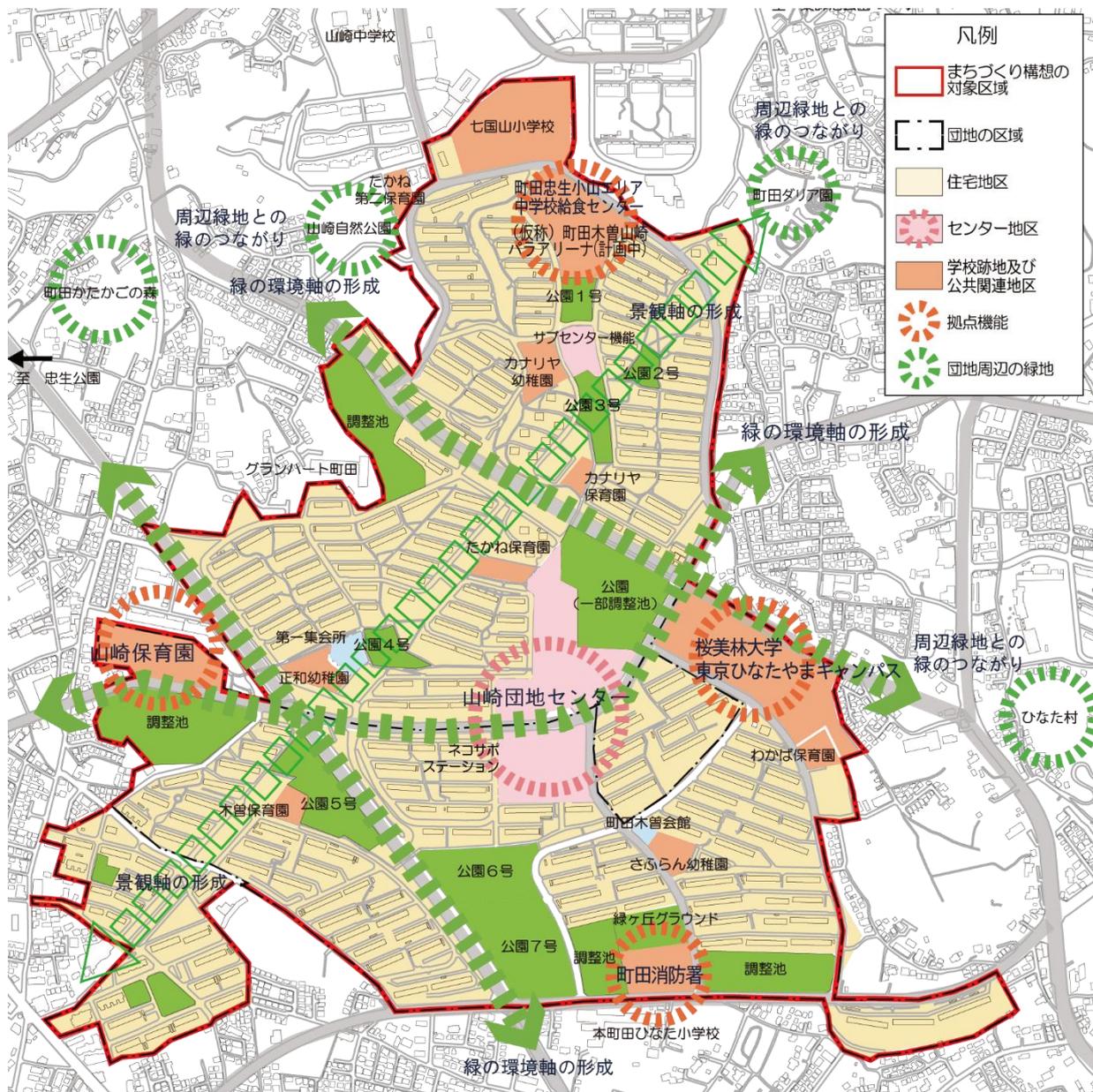
林の中の広場やレクリエーションルーム、カリヨンホールなどを備えた子どもたちのための施設で、子どもや親子向けの各種講座やイベントが盛んに行われています。

### ⑤本町田後田公園



旧本町田少年サッカー場を公園として整備し、グラウンドと多目的室を設置するなど市民利用の拡大を行っています。

### (3)現時点(2025年度)でのまちづくり進捗状況



- 
**緑の環境軸**  
 既存樹木の保全や植栽環境改善、緑化などにより緑のシンボルロードの形成を図る。
- 
**景観軸**  
 開放的で見晴らしの良い空間を活かし団地地区独自の景観の形成を図る。

## 5 団地地区の課題

当初構想策定時の団地地区では、少子高齢化に伴う賑わいや活気の低下など、まちの活力低下が懸念されています。また施設の老朽化や住民ニーズの変化に伴う施設需要の変化など、様々な課題をかかえていました。

この度、モノレール延伸や社会情勢の変化を踏まえ、改めて整理した現在の団地地区の課題は以下の通りです。

### ■安心・安全面の課題

- ・ 段差や急勾配箇所が多い
- ・ 避難場所が遠い
- ・ 災害時の備蓄・物資運搬の仕組みがない
- ・ 見守りや防犯対策が必要
- ・ 狭い歩道や夜間照明が少ない場所での歩行に不安を感じる



エレベータの無い住宅棟

### ■多世代交流に向けての課題

- ・ 多世代が交流する機会が少ない
- ・ お祭りのイベントは他の地区より多数ある、
- ・ 住民同士のコミュニケーションの希薄化
- ・ コミュニケーションがとりやすい休憩スペースが不足している
- ・ 多様な活動に対応できる施設が少ない
- ・ ボランティアやNPO活動を支援する仕組みがない



賑わいの低下が見られる  
センター地区

### ■利便性に関する課題

- ・ 高齢者等の買い物難民、移動困難者の増加
- ・ 団地内や近隣を回遊する地域交通手段がない
- ・ 駅や拠点間を結ぶ公共交通が不便

### ■まちの魅力に関する課題

- ・ 住棟の老朽化・設備などの陳腐化
- ・ 若年・子育て世代、高齢者など多様なニーズに充分に応えられていない間取りが多い
- ・ 魅力的な店舗や利便施設が不足している

### ■環境活用に関する課題

- ・ 緑豊かな環境がまちづくりに十分に活かされていない
- ・ エネルギー消費量や環境負荷の増大

## 6 まちづくりの目標・方向性

当初構想で示した第一ステップである学校跡地の活用を進めつつ、団地地区の現状および課題を踏まえ、団地地区の住民がいつまでも安心して住み続けられ、地区全体が活性化するための、まちづくりの目標・方向性を以下の通り定めます。

### まちづくりの目標 『新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり』

#### まちづくりの方向性 1 安心して暮らせるまちづくり

防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図り、長く住み続けられるまちを目指します。

#### まちづくりの方向性 2 楽しく交流できるまちづくり

多様な世代やライフスタイルの人達が、気軽に集い、交流することができる場を作り、コミュニティを再生します。

#### まちづくりの方向性 3 利便性の高いまちづくり

すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスやモノレール新駅を中心とした便利な公共交通を充実させます。

#### まちづくりの方向性 4 周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり

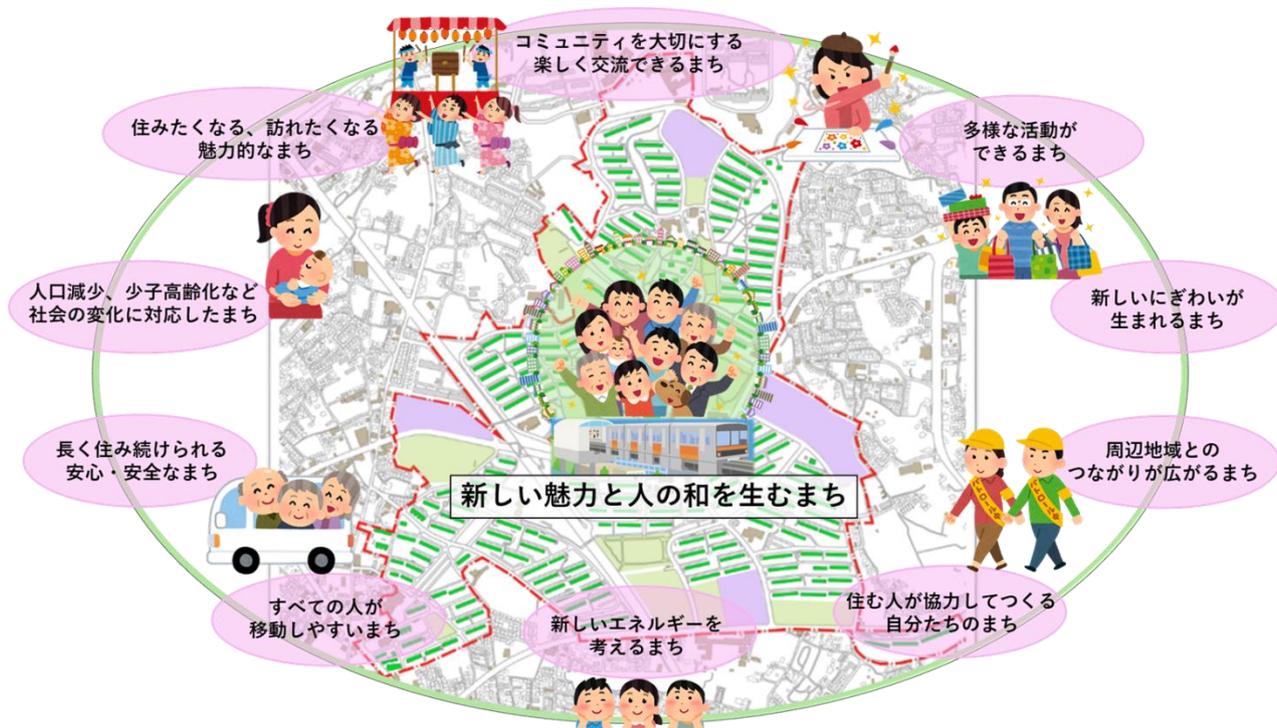
地区外から訪れたい、住みたい、歩きたいようなまちの魅力を作ります。

#### まちづくりの方向性 5 環境を考えたまちづくり

緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源対策へも配慮したまちを目指します。

## 7 まちの将来像

「6. まちづくりの目標・方向性」が達成された姿を表す、まちの将来像は以下の通りです。



## 8 まちづくりの進め方

まちづくりの目標と方向性、将来像の実現に向け、どの様にまちづくりを進めていくかというまちづくりの進め方を整理しました。

第一ステップの学校跡地の活用を中心としたまちづくりを進め、第二ステップとして、モノレール延伸を契機としたまちづくりを、第三ステップとして、新たなまちが形成される段階を進めていきます。

なお、社会情勢の変化に柔軟に対応したまちづくりを行うため、第二・第三ステップは現時点での想定になります。随時検証を加え、修正を図ります。

### 【まちづくりの進め方】

第一ステップ 学校跡地の活用を中心としたまちづくり【継続中】

第二ステップ モノレール延伸を契機としたまちづくり

第三ステップ 新たなまちの形成

【まちづくりのイメージ】

【まちづくりの目標】

『新しい魅力と人の和を生む団地再生まちづくり』

【まちづくりの方向性】

- ①安心して暮らせるまちづくり
- ④周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり

- ②楽しく交流できるまちづくり
- ⑤環境を考えたまちづくり

- ③利便性の高いまちづくり

【まちづくりの進め方】

モノレールの計画スタート

モノレール駅開業

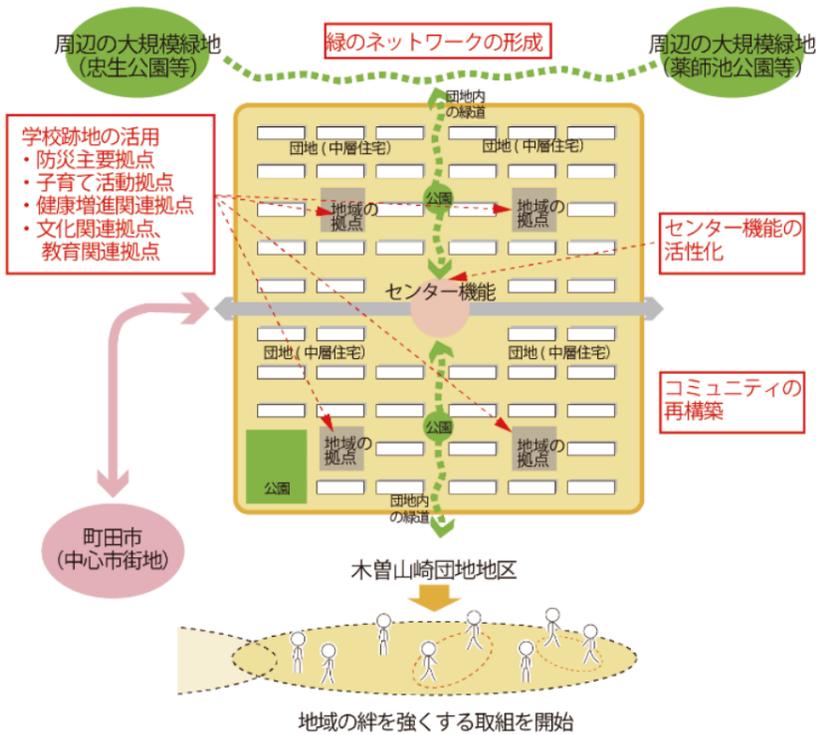
地域の成熟



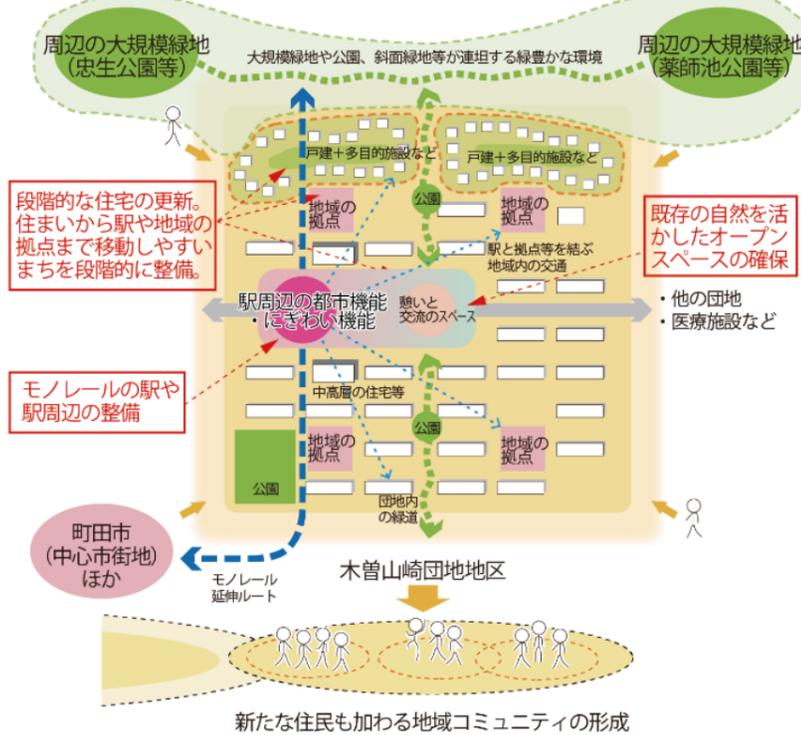
第一ステップ  
学校跡地の活用を中心としたまちづくり

第二ステップ  
モノレール延伸を契機としたまちづくり

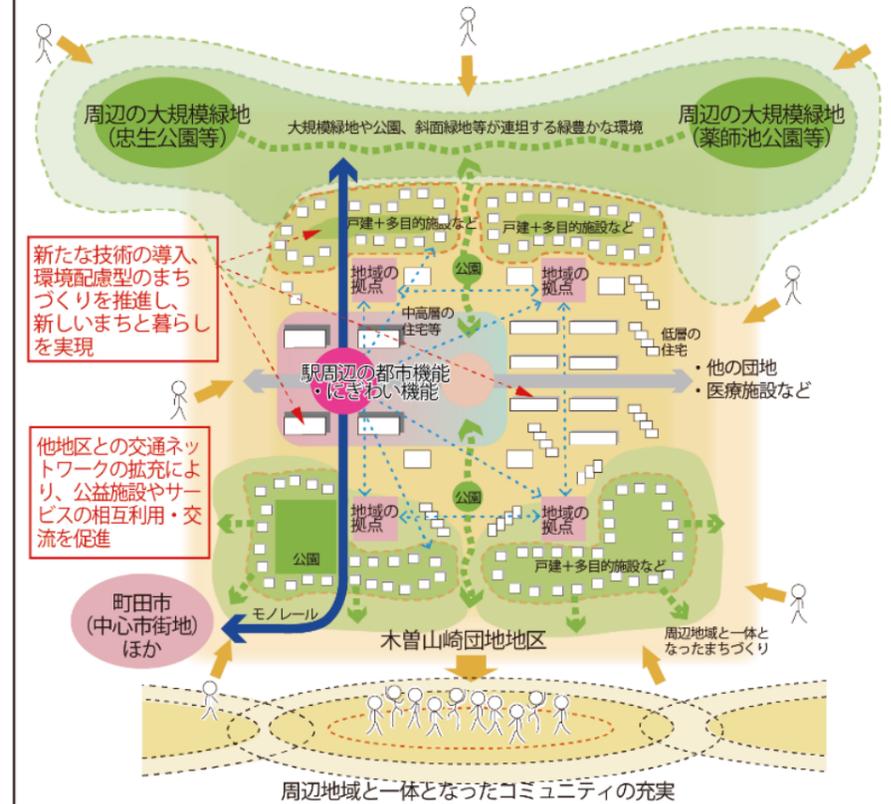
第三ステップ  
新たなまちの形成



まちの将来像の実現に向け、まちづくりを行う最初の段階です。学校跡地の活用をはじめ、団地内の既存の財産を有効に活用し、住民の生活における身近な問題を解決することを中心に、まちづくりの目標・方向性に沿ったまちづくりを行っています。  
学校跡地の整備も進み、(仮称)町田木曽パラアリーナの建設をもって完了となります。



多摩都市モノレールの新駅の開業に向けて、駅周辺への新たなにぎわい機能の導入や既存のセンター地区との連携を強化するまちづくりを行う段階です。また、団地の住棟だけでなく、様々な目的に合せた新たな住宅の整備、地域の拠点機能の充実などにより、新たな住民や来訪者の増加を促します。緑豊かなオープンスペースと共に「住む」だけでなく多機能なまちとしての魅力を生み出し、これにより交流の輪が大きく広がり、活気あるまちに変えていきます。



モノレール駅を中心としたまちの魅力が浸透し、町田駅に次ぐ「地域拠点」として広域から利用されるまちを形成していく段階です。新たな技術の導入や環境配慮型のまちづくりにより新たな生活が生まれます。周辺地域との和を広げた一体的なまちづくりや、地域間のネットワークの充実を図り、周辺に開かれた魅力のあるまちへと生まれ変わります。

※まちづくりは継続して行われるものであり、第一から第三ステップは段階的まちづくりのイメージを示したものです。